



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692 (住所記入不要)
☎ 0276-88-5111 (代表)
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)
☎ 0276-89-0136
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第三十八回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

「邑楽町の昔ばなし」より

邑楽町の地名あれこれ④



邑楽町の南部を東西に走る鞍掛山。その周辺を深く掘ったところ、赤土がでてきたのが赤堀の由来といわれています。

鶉新田（うずらしんでん）

新田の頭に鶉が付いていますから、鶉から分かれて出来た村であったことが想像できます。今でも、鶉新田のことを「向野」と呼ぶことがありますが、元村の鶉から見ると南にあり、山林地帯を過ぎ、沼の向こうにある離れ地でした。従って向野に行くには日向・日向新田金糞から舟を使って渡るか、中野・下中野に出るから江尻橋を渡って行くしか方法はありませんでした。近道には板橋の掛かった田んぼ道もありましたが、荷車など通れる道ではなかったのです。

そもそも向野が開発されたのが今から350年ぐらいの昔で、人家は少なく戸数が増え、村落を形成したのは、それから60年も過ぎたころだそうです。

宝永4（1707）年初めて村として鶉村から分かれて独立したそうです。

これについて理不尽な話があります。鶉村から独立した鶉新田は享保15（1730）年に出された幕府の御触れにより、新村は「村」と称することができなかつたそうです。村であった

て村という名称が使えず、明治22年4月の町村制の施行を迎え、中野村大字鶉新田となったといえます。

赤堀（あかほり・あかぼり）

「赤」という字のついた地名はあちこちに多く見られます。近くは、館林市の「赤生田」「赤土」、千代田町の「赤岩」、佐波郡の「赤堀」、桐生市の「赤岩」などがあります。

邑楽町の赤堀は鞍掛台地に位置する住宅地帯や農地山林です。東から北にかけては館林市、本町大字狸塚、南から西にかけては館林市、千代田町、本町大字篠塚に接しています。

地名の由来について定かな説はありませんが、室町時代（足利時代・1336～1572）の初期、水利のため台地を深く掘割ったところ、赤土の層が出てきて、築いた土手が赤々と見えたので誰いうことなく、その堀の辺りを赤堀と称するようになったという人もいます。

学者の説明では、この赤土が、いわゆる関東ローム層と呼ばれているもので、なんでも1万年も前からの火山活動の噴火物が降り積もったもののだといえます。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



春、満開
(おうら中央公園)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶11年ぶりに広報おうら編集担当に戻ってきました。かつて私が担当していたころ、写真はネガフィルムが主でしたが、今では完全にデジタル化。編集用パソコンの性能も当時と比べて格段に向上しています。▶でも、取材や編集作業はやっぱり人の力。これからも広報担当者は皆さんのところへお邪魔します。カメラを向けられたら、とびっきりの笑顔をお願いします。…と言っても、誌面に限りがあるのも事実。写真を撮ったのに掲載できなかった皆さん、本当にごめんなさい。▶笑顔は人を元気にします。みんなの笑顔を満載して、広報おうらはこれからも、町民の皆さんになくってはならないツールでありたいと考えています。(田中)



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。